平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	相談援助の理論と方法B(Theory and Method of Social WorkB)	授業コード	E042951
担当教員名	小桐　修		
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	4
履修上の注意または履修条件	社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は必ず受講すること。 すでに、「相談援助の基盤と専門職A・B」および「相談援助の理論と方法A」を履修していることが望ましい。 かなり専門的な内容(ソーシャルワークの技術)に立ち入るので、社会福祉士(ソーシャルワーカー)を目指すのでなければ、益に乏しい科目であることを断っておきたい。		
受講心得	よく考えること、たくさん読むこと、真摯な態度で授業に臨むこと。		
教科書	使用しない。		
参考文献及び指定図書	新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規 MINERVA社会福祉士養成テキストブック3・4『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ』ミネルヴァ書房		
関連科目	相談援助の基盤と専門職 社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習		

授業の目的	ソーシャルワーカーとして欠くことのできない技術の理解を目指す。
授業の概要	「社会福祉士及び介護福祉士法」は、「身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供するの者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うこと」を、「相談援助」と位置づけている。本科目「相談援助の理論と方法」は、「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正に伴って大幅に見直された新カリキュラムに基づくものであり、旧カリキュラムにおいて「社会福祉援助技術論」と呼ばれていた科目に該当する。旧カリキュラムの「社会福祉援助技術論」がソーシャルワークを、個別援助技術(ケースワーク)、集団援助技術(グループワーク)、地域援助技術(コミュニティワーク)に細分化してとらえていたのに対して、新カリキュラムの「相談援助の理論と方法」は、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライエント・システムとしてとらえ、それらのシステムを横断する統一的なソーシャルワーク理論を展開する点に特徴がある。本科目では、ケースマネジメント(ケアマネジメント)、スーパービジョン、コンサルテーション、ネットワーキング、さまざまな援助モデルとアプローチなどを講ずる。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : 相談援助のおける対象の理解(1)	参考文献及び指定図書の項に記した『相談援助の理論と方法Ⅱ』の内容を中心に授業を進めます。購入することが望ましいですが、図書館を利用して予習・復習をすると学習効果が上がります。
第 2 週 : 相談援助における対象の理解(2)	
第 3 週 : ケースマネジメント(1)	事例を提示します。
第 4 週 : ケースマネジメント(2)	
第 5 週 : グループを活用した相談援助(1)	事例を提示します。
第 6 週 : グループを活用した相談援助(2)	

第 7 週： コーディネーションとネットワーキング（1）	
第 8 週： コーディネーションとネットワーキング（2）	
第 9 週： 相談援助における社会資源の活用・調整・開発（1）	
第10週： 相談援助における社会資源の活用・調整・開発（2）	
第11週： さまざまな実践モデルとアプローチ（1）	事例を提示します。
第12週： さまざまな実践モデルとアプローチ（2）	
第13週： さまざまな実践モデルとアプローチ（3）	
第14週： さまざまな実践モデルとアプローチ（4）	
第15週： さまざまな実践モデルとアプローチ（5）	
第16週： さまざまな実践モデルとアプローチ（6）	
第17週： スーパービジョンとコンサルテーションの技術（1）	
第18週： スーパービジョンとコンサルテーションの技術（2）	
第19週： ケースカンファレンスの技術（1）	事例を提示します。
第20週： さまざまな実践モデルとアプローチ（6）	
第21週： 相談援助における個人情報の保護（1）	
第22週： 相談援助における個人情報の保護（2）	
第23週： 相談援助における情報通信技術の活用（1）	
第24週： 相談援助における情報通信技術の活用（2）	
第25週： さまざまな実践モデルとアプローチ（6）	

第26週： 事例研究・事例分析（2）	事例を提示します。
第27週： 相談援助の実際（1）	事例を提示します。
第28週： 相談援助の実際（2）	事例を提示します。
第29週： ソーシャルワークの哲学（1）	
第30週： ソーシャルワークの哲学（2）	

授業の運営方法	（1）授業の形式	
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	相談援助の現場への関心を深めることができる。
【知識・理解】	相談援助の実践モデルとやアプローチの方法について総合的に理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	相談援助の実践モデルやアプローチの方法について、それらの適用可能性を説明できる。
【思考・判断・創造】	現実場面において相談援助技術を適用して解説することができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	70			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出します。 達成水準の目安は以下の通りです。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点します。